

(研究用)

当院は下記の研究を実施しています

課題名 特徴的な細胞マーカー所見を示す白血病症例に対する

研究の目的・意義

網羅的遺伝子解析研究

この研究では、小児白血病や関連した病気であるリンパ腫の患者さんの中で、細胞マーカー検査が特徴的な結果だった患者さんや、診断が難しかった患者さんの白血病(リンパ腫)細胞の遺伝子異常を詳しく調べます。それがわかると、細胞マーカー検査の結果からその遺伝子の異常が簡単に予測できるようになって、将来的に、診断や有効な治療法の選択に役立ちます。

小児白血病は、遺伝子の異常によって起る血液のがんです。細胞マーカー検査は、白血病の細胞に含まれるタンパクなどの分子の特徴を調べて、どういうタイプの白血病かを調べる検査で、その結果は遺伝子の異常と深く関係しています。

白血病は、骨髄性とリンパ性の2つの種類に大きく分かれ、リンパ腫はリンパ性白血病に関連した病気ですが、これらの病気の原因となる遺伝子の異常にはさまざまな種類があるので、それぞれが、さらにいろいろなタイプに分かれます。タイプの違いによって、どの治療法を選ぶか、また、お薬(あるいは治療)がどの位有効か、が違ってきますが、特徴的な(非常に珍しいタイプの)細胞マーカーの結果だった患者さんについては詳しいことがわかっていません。また、時に、骨髄性とリンパ性の両方の性格を一緒に示す患者さんや、どちらとも診断できない患者さんがいますが、原因の遺伝子がわからず、どの治療をしたら良いかはっきりしていません。

研究の方法

全国の診療施設で「小児白血病/リンパ腫」の診断を受け、「日本小児白血病リンパ腫研究グループ(JPLSG)における小児血液腫瘍性疾患を対象とした前方視的研究」への参加を同意され、「試料保存に関するお願い(研究利用を目的とした試料保存)」に同意をいただいた患者さんのうち、キメラ遺伝子検査が陰性で、細胞マーカー診断で特徴的な(非常に珍しい)所見があった患者さんや診断が難しかった患者さんを対象として、保存させていただいている試料(DNA、RNA、細胞)を使わせていただき、白血病細胞の遺伝子異常をさまざまな方法で詳しく調べます。あわせて、白血病ではない細胞の試料の保存の同意をいただいている患者さんでは、こちらも、見つかった異常が本当に白血病だけのものかどうか確認する目的で調べさせていただきます。すでに保存させていただいている試料だけを利用する研究で、再検査や費用負担など、患者さんに新たに何かをお願いすることはありません。患者さんの氏名などの個人情報は一切使いません。

研究実施機関

遺伝子解析施設: 国立成育医療研究センター(小児血液・腫瘍研究部) 大木健太郎

HPIにて概要を掲載 <http://www.ncchd.go.jp/>

ご自身が該当するかもしれない、と思われる方(およびその保護者の方)で、この研究にご自分(あるいはお子さん)の保存検体を使用されることを拒否したい場合には担当医にご連絡ください。もっと詳しく知りたい場合や、該当するかどうかよくわからない場合でも、担当医に申し出ただけであれば、研究責任者に連絡をとって、確認をするなど、対応させていただきます。

※現在、細胞マーカー検査は、日本小児白血病リンパ腫研究グループ(JPLSG)の中央診断として行なわれており、日本のすべての患者さんが同じ内容の最先端の検査を受けています。